

茨木市及び周辺圏域の詳細分析・将来予測及び
必要となる医療機能の分析結果

2021（令和3）年2月15日

(1) 茨木市及び周辺圏域の人口及び患者数の動向

(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

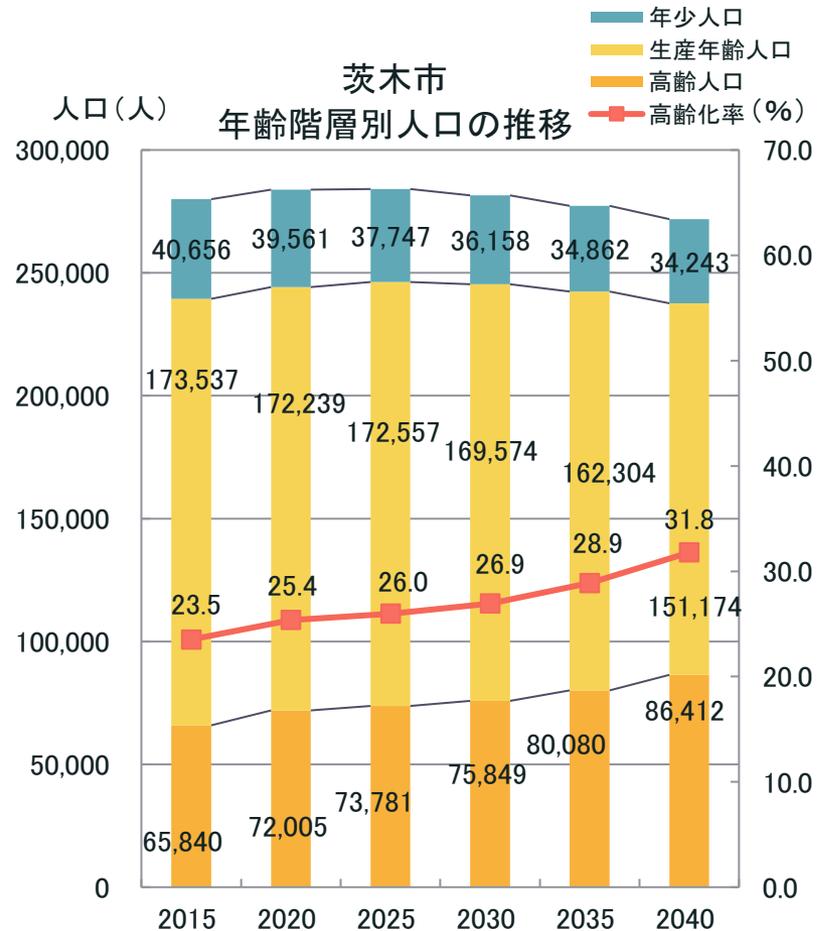
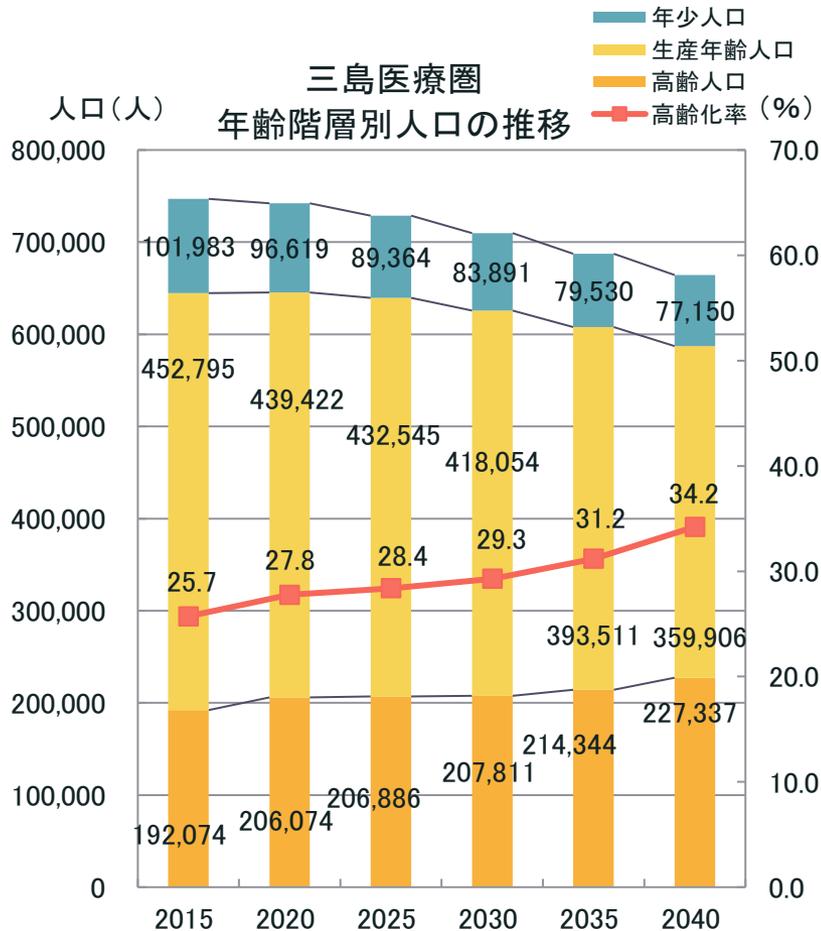
(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

- 超高齢社会の進展に伴い、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を見据え、増加・多様化する医療ニーズに応じた、効果的かつ効率的で、切れ目のない医療提供体制の構築や医療と介護との連携促進が喫緊の課題となっている。
- 都道府県における医療提供体制の確保を図るための計画として、大阪府では平成30（2018）年に第7次大阪府医療計画が策定され、5疾病4事業及び在宅医療を中心に、医療機関や関係機関に対し、今後の医療提供体制を検討していく上での基本的な方向性が示されている。
- また、地域ごとに効率的で不足のない医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築するための地域医療構想が策定され、茨木市の属する三島二次医療圏域でも三島保健医療協議会において地域構想を推進するための協議が行われている。
- このような状況のなか、茨木市においても将来の人口及び患者数の動向、医療提供体制、5疾病4事業等への対応状況、受療動向等をふまえ、将来にわたり市民の医療ニーズに対応できる環境を確保・維持することが求められている。

(1) 茨木市及び周辺圏域の人口及び患者数の動向

茨木市及び周辺圏域の将来推計人口及び高齢化率

■ 茨木市の人口は令和7（2025）年まで増加する見込みであり、三島二次医療圏全体と比べ人口の減少は緩やかで高齢化率が低い。

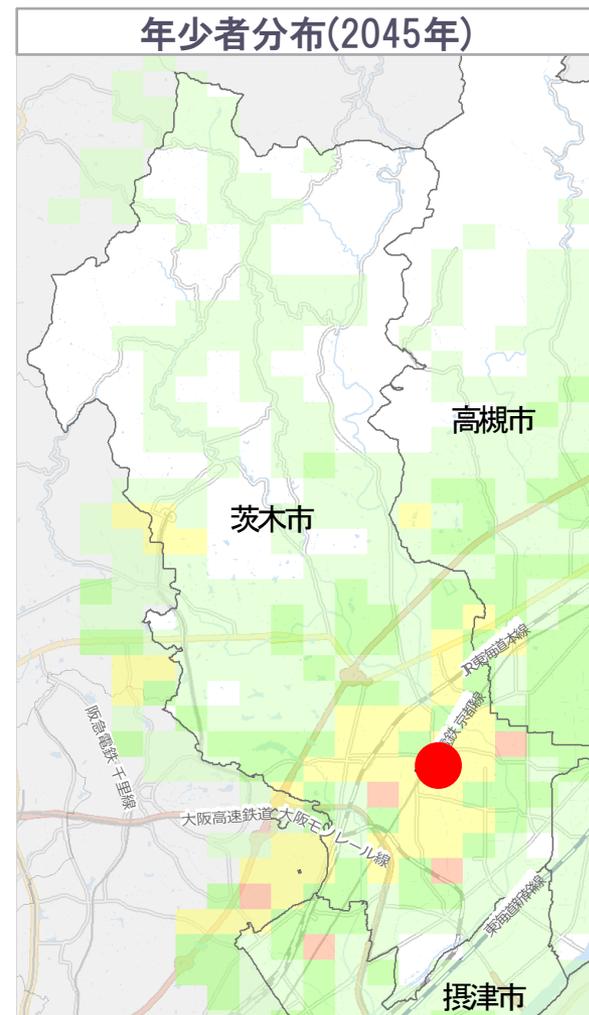
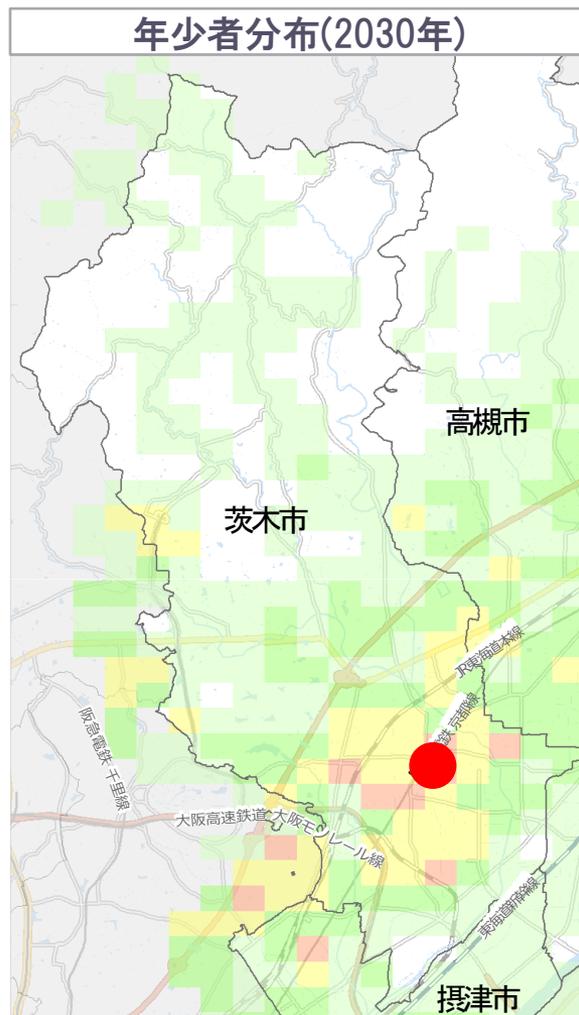
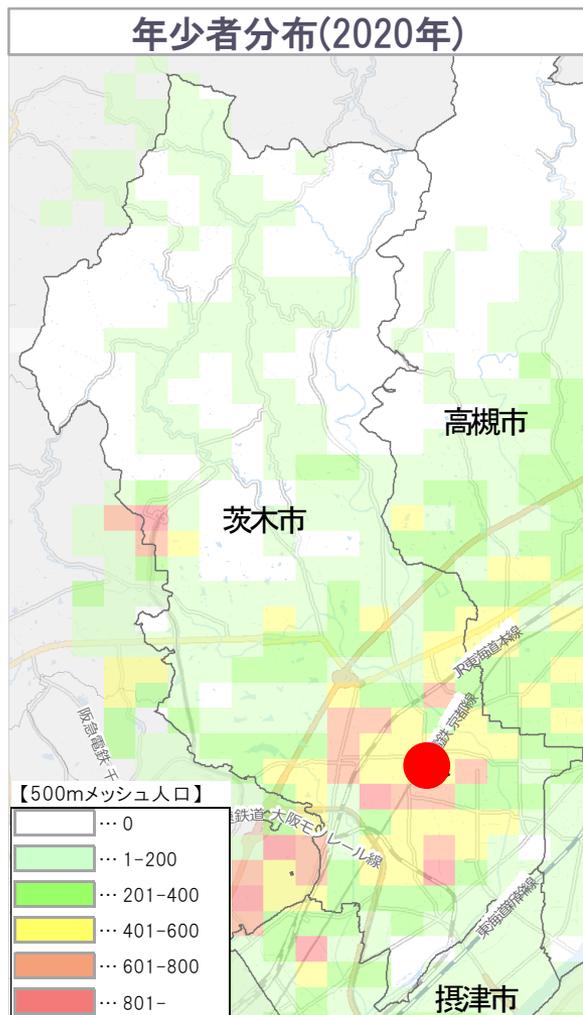


出典:「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

(1) 茨木市及び周辺圏域の詳細分析・将来予測について

茨木市の現状と将来の年少者分布

■ 年少者(0歳-14歳)人口は減少するが、茨木市中央圏域に集中している。

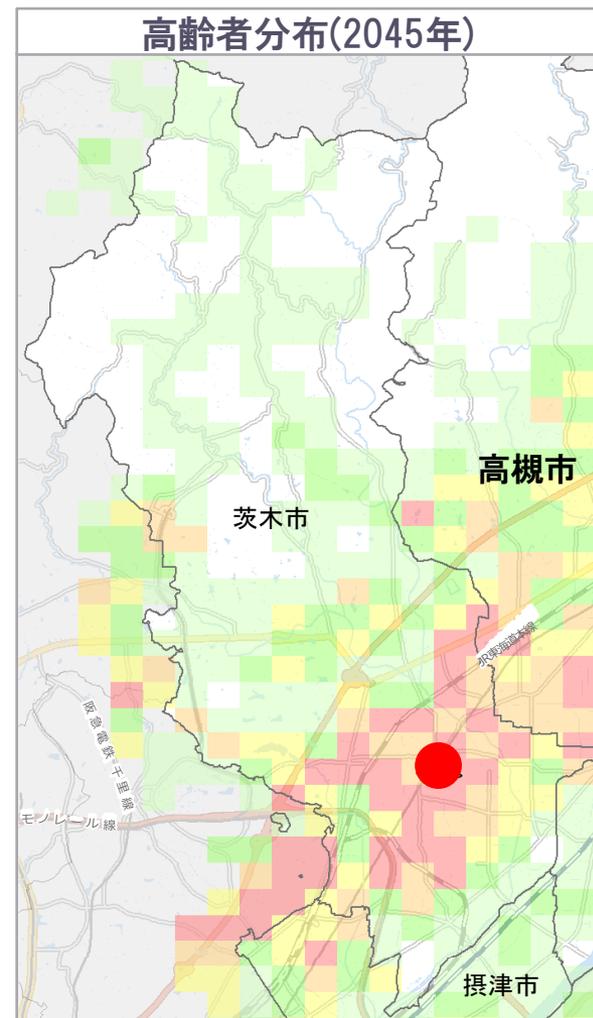
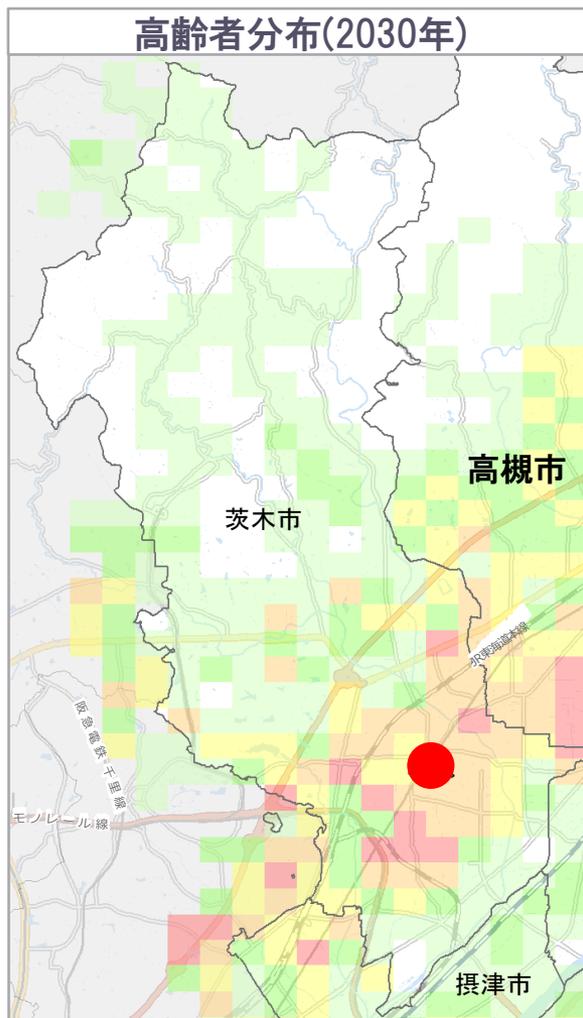
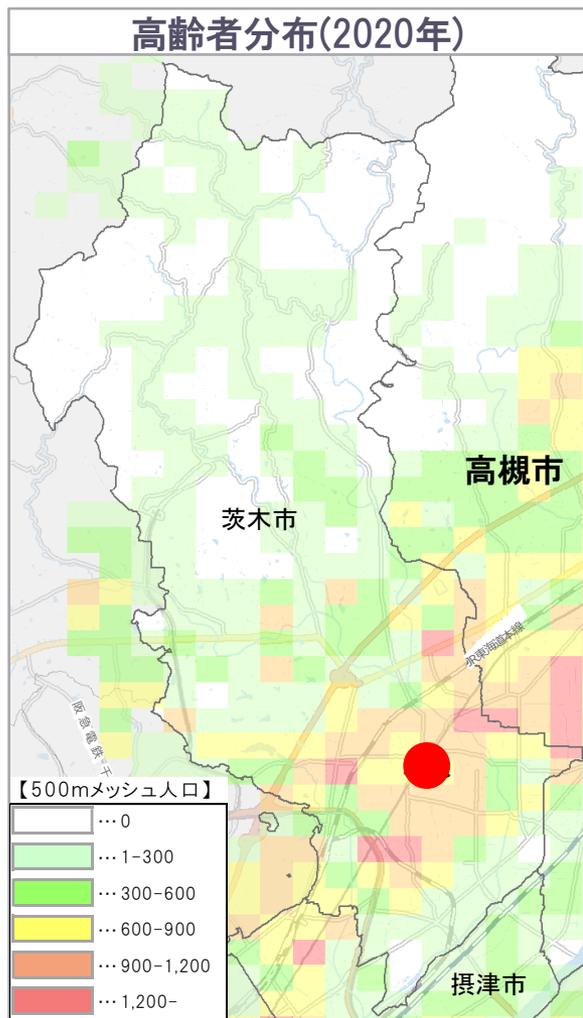


出典:500mメッシュ別将来推計人口(平成30年国政局推計)

(1) 茨木市及び周辺圏域の詳細分析・将来予測について

茨木市の現状と将来の高齢者分布

- 高齢者（65歳以上）人口は茨木市中央圏域を中心に増加する。



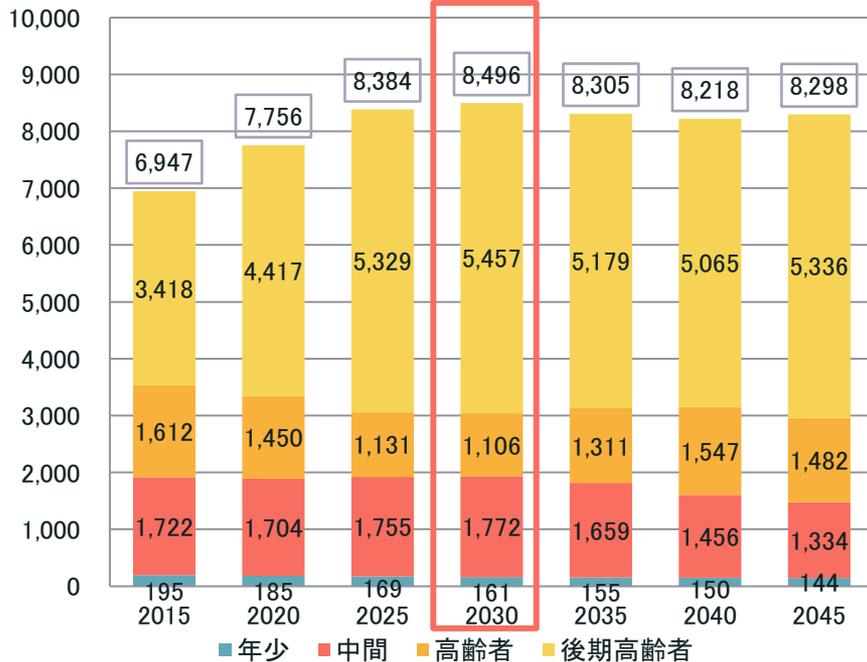
出典:500mメッシュ別将来推計人口(平成30年国政局推計)

(1) 茨木市及び周辺圏域の人口及び患者数の動向

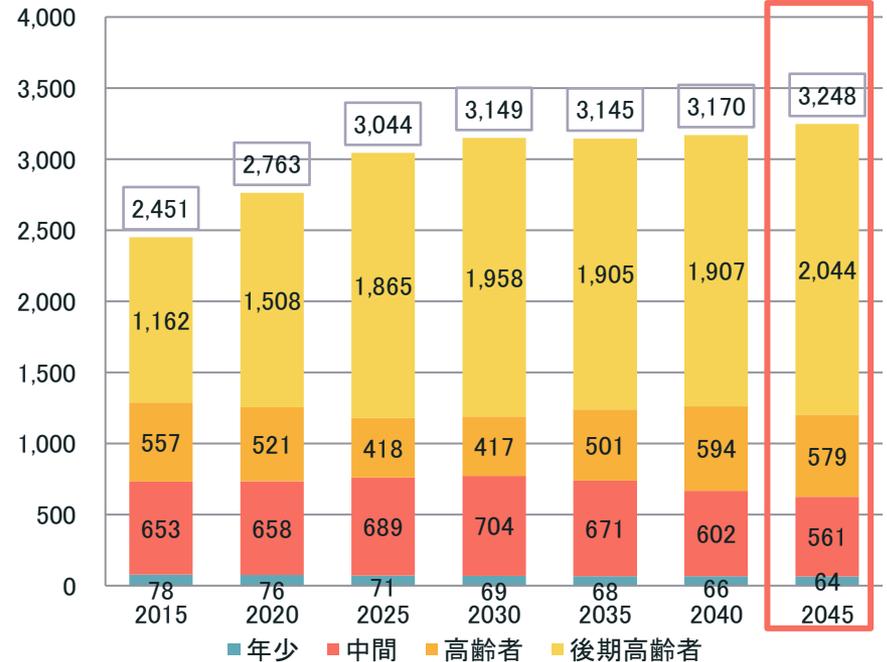
茨木市及び周辺圏域の将来推計入院患者数

- 三島二次医療圏では令和12（2030）年にピークを迎える一方で、茨木市は令和27（2045）年まで患者数が増加する見込みであり、特に後期高齢者の患者数増加が予測される。

三島医療圏
入院患者数将来推計



茨木市
入院患者数将来推計



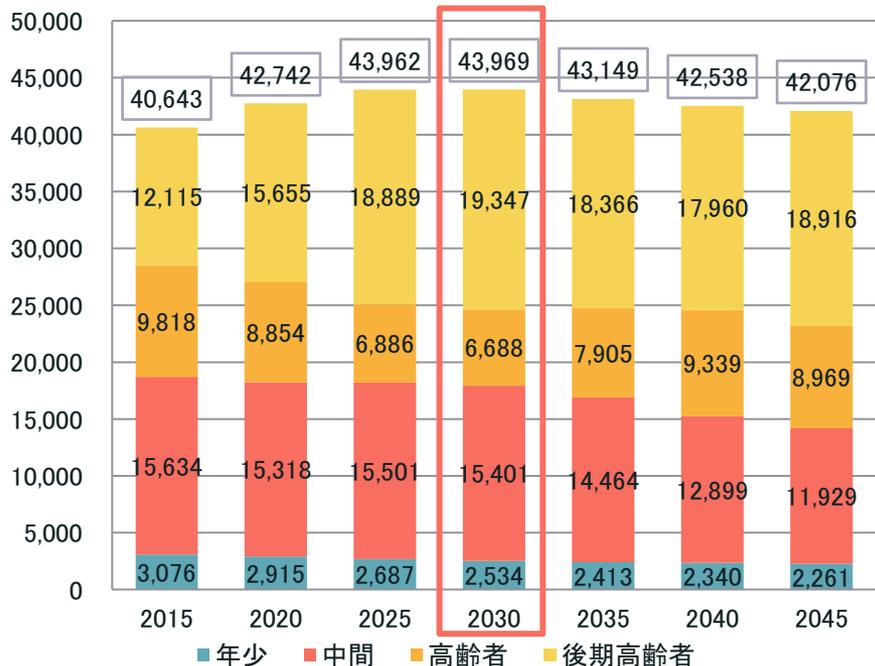
出典:「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)と患者調査(平成29年)(厚生労働省)より算出

(1) 茨木市及び周辺圏域の人口及び患者数の動向

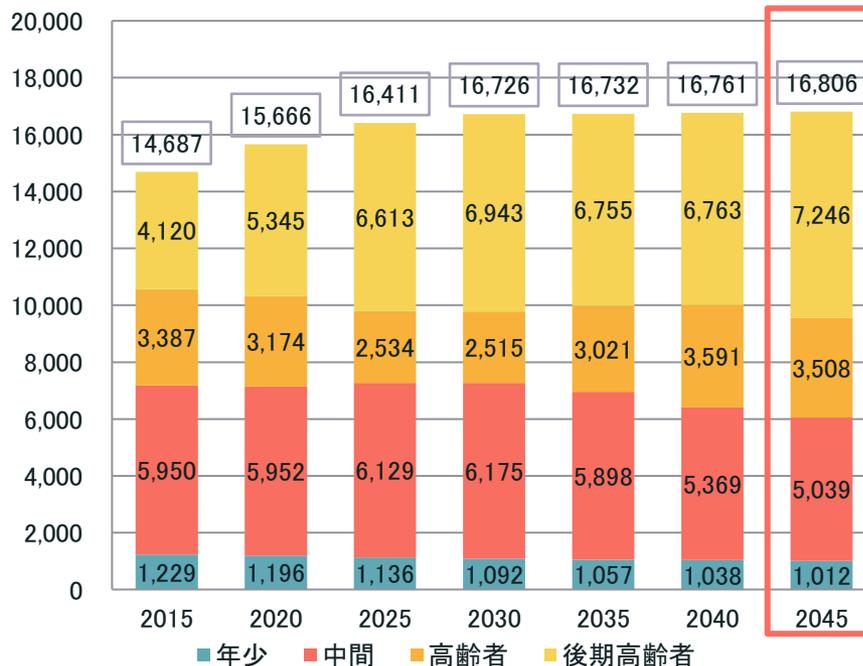
茨木市及び周辺圏域の将来推計外来患者数

■ 三島二次医療圏では入院患者と同様に令和12（2030）年にピークを迎える一方で、茨木市は令和27（2045）年まで患者数が増加する見込みとなっている。

三島医療圏 外来患者数将来推計



茨木市 外来患者数将来推計



出典:「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)と患者調査(平成29年)(厚生労働省)より算出

(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

地域医療構想における必要病床数

- 大阪府が策定した地域医療構想によると三島二次医療圏では、令和7年（2025年）に高度急性期機能は66床不足、急性期機能は134床過剰、回復期機能は1,728床不足、慢性期機能は903床不足となっている。
- 一方で、茨木市は高度急性期機能の割合が低く、慢性期機能の割合が高くなっており、高度急性期機能及び回復期機能が不足している状況にある。

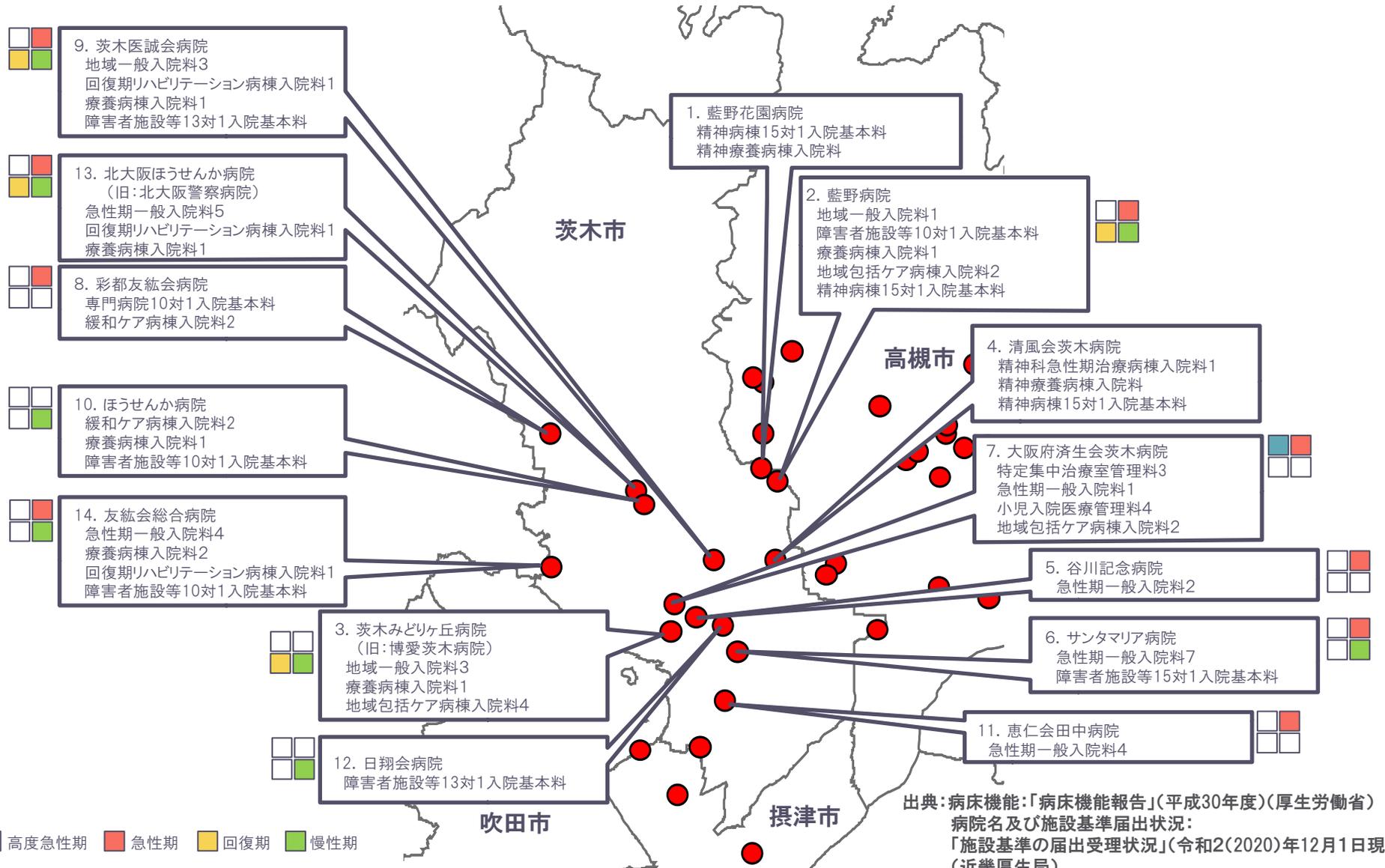
<三島二次医療圏の病床機能報告と病床数の必要量の病床機能区分ごとの比較>

区分	年度	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計
病床機能報告 ①	2018	890	3,095	1,058	1,507	84	6,634
		13.4%	46.7%	15.9%	22.7%	1.3%	100.0%
うち、茨木市	2018	4	1,154	361	843	5	2,367
		0.2%	48.8%	15.3%	35.6%	0.2%	100.0%
病床数の必要量 ②	2025	956	2,961	2,786	2,410		9,113
		10.5%	32.5%	30.6%	26.4%		100.0%
①-②		△ 66	134	△ 1,728	△ 903		△ 2,479

出典：「大阪府地域医療構想」(平成28年3月)(大阪府)、「病床機能報告」(平成30年度)(厚生労働省)

(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

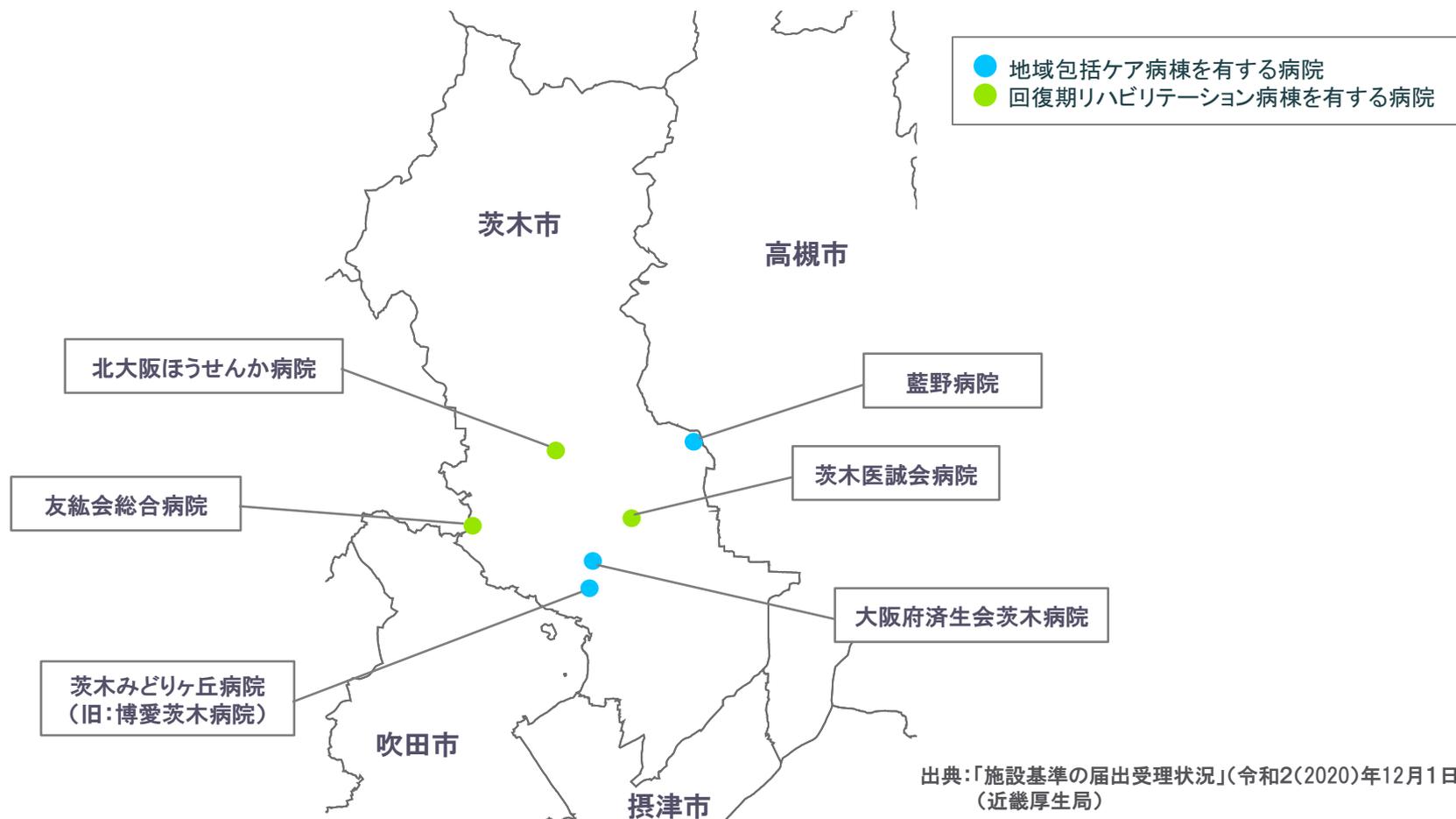
茨木市の病床の配置状況



(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

茨木市の回復期機能の病床の配置状況

- 回復期機能の病床（地域包括ケア病棟入院料及び回復期リハビリテーション病棟入院料を届け出ている病床）は北・東・西圏域にはあるが、中央・南圏域にはない。



(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

参考資料：地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟について

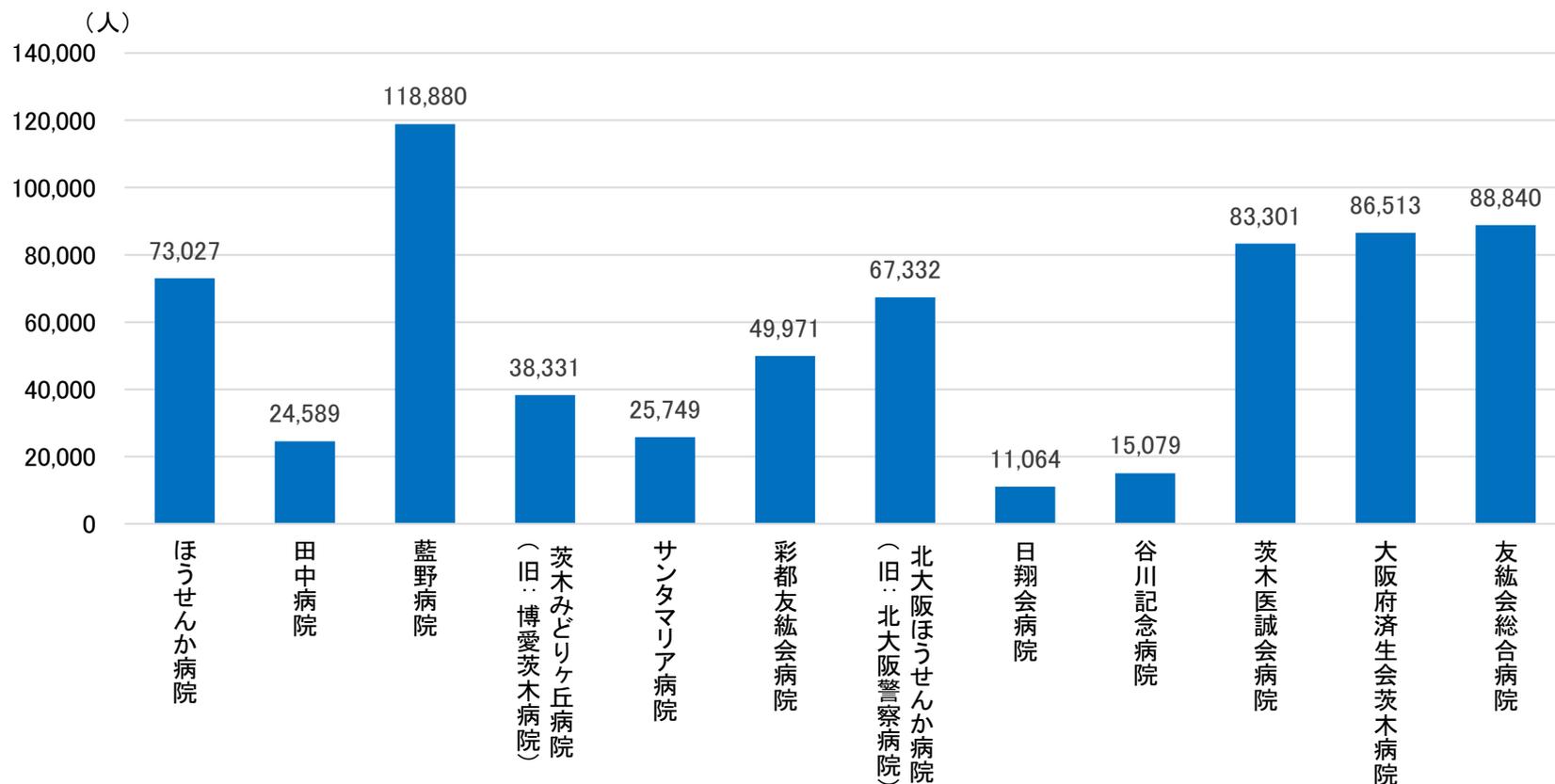
<地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の比較>

	地域包括ケア病棟	回復期リハビリテーション病棟
主な機能・役割	<ul style="list-style-type: none"> 急性期治療を経過した患者や在宅で療養を行っている患者の受入れ 患者の在宅復帰支援 	<ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患または大腿骨頸部骨折等の患者に対して、ADLの向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に実施
対象患者	<ul style="list-style-type: none"> 対象疾患の制限なし 	<ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態 股関節又は膝関節の置換術後の状態
入院日数	60日を限度	疾患によって60～180日を限度

(2) 茨木市及び周辺圏域の医療供給の状況

茨木市内病院の実績（平成29年7月～平成30年6月）

- 茨木市内の病院の在棟患者延べ数（一般病床、療養病床のみ）は藍野病院が最も多くなっている。



※在棟患者延べ数とは、平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間に毎日24時現在で当該病棟に在棟していた患者の延べ数をいう

出典:「病床機能報告」(平成30年度)(厚生労働省)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

がん

- 茨木市内では、がん診療連携拠点病院は未設置であり、三島二次医療圏内では高槻市内の4施設ががん診療連携拠点病院に指定されている。

がん診療連携拠点病院

		がん診療連携拠点病院	区分	
			国指定	府指定
三島二次医療圏	高槻市	大阪医科大学附属病院	○	
		高槻赤十字病院		○
		愛仁会高槻病院		○
		北摂総合病院		○
＜参考＞	吹田市	大阪大学医学部附属病院	○	
		大阪府済生会千里病院		○
		市立吹田市民病院		○
		大阪府済生会吹田病院		○
	箕面市	箕面市立病院		○

出典:「大阪府内のがん診療拠点病院一覧」(令和2年(2020)年7月17日現在)(大阪府)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

脳血管疾患

- 三島二次医療圏において、脳卒中の急性期治療を行う病院は10施設であり、脳血管内手術が可能な病院が5施設、t-PA治療可能な病院が6施設ある。

脳卒中治療の実施病院数

(施設)

	脳卒中の急性期治療を行う病院数	頭蓋内血腫除去術	脳動脈瘤根治術	脳血管内手術	うち脳動脈瘤コイル塞栓術		経皮的脳血栓回収術	経皮的選択的脳血栓・塞栓溶解術	脳卒中学会が示す(旧基準)t-PA静注療法実施施設基準	頸部動脈血栓内剥離術	脳血管疾患リハビリテーション
					うち経皮的頸動脈ステント留置術						
三島二次医療圏	10	10	7	5	5	5	4	3	6	4	24
茨木市	3	3	1	1	1	1	-	2	2	1	9
高槻市	6	6	6	4	4	4	4	1	4	3	11
摂津市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
島本町	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<参考> 吹田市	5	5	5	5	4	5	3	1	5	3	13
箕面市	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大阪府	111	106	95	79	57	58	52	77	76	68	361

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

※大阪府は平成30(2018)年12月6日現在

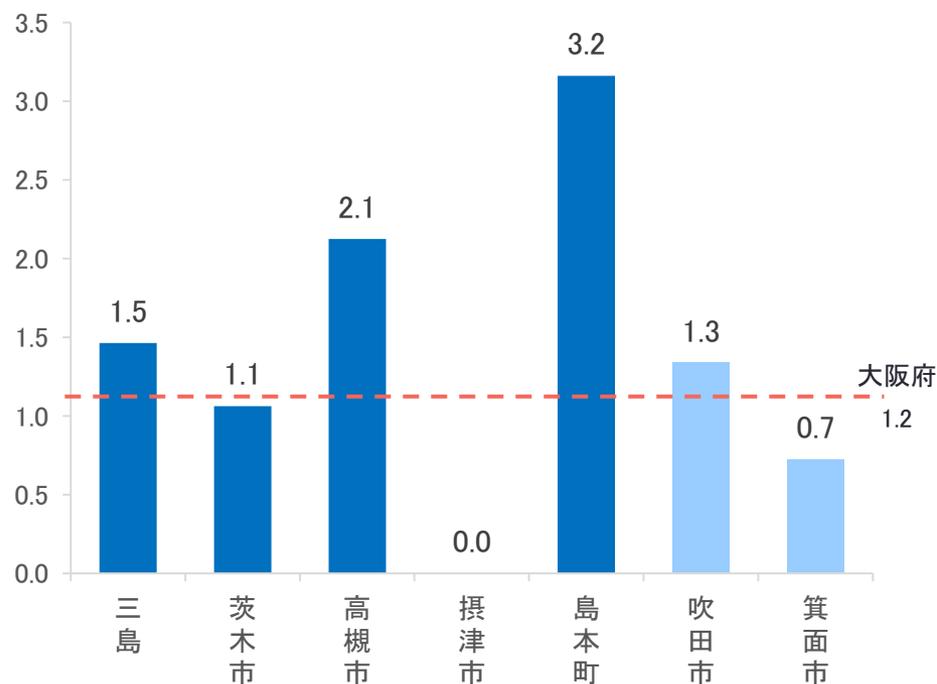
(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

脳血管疾患

- 茨木市の人口10万人対での脳卒中の急性期治療を行う病院数は大阪府の平均を下回り、脳血管疾患等リハビリテーションに対応する病院数も大阪府(4.1)、三島二次医療圏(3.5)と比較すると少ない。

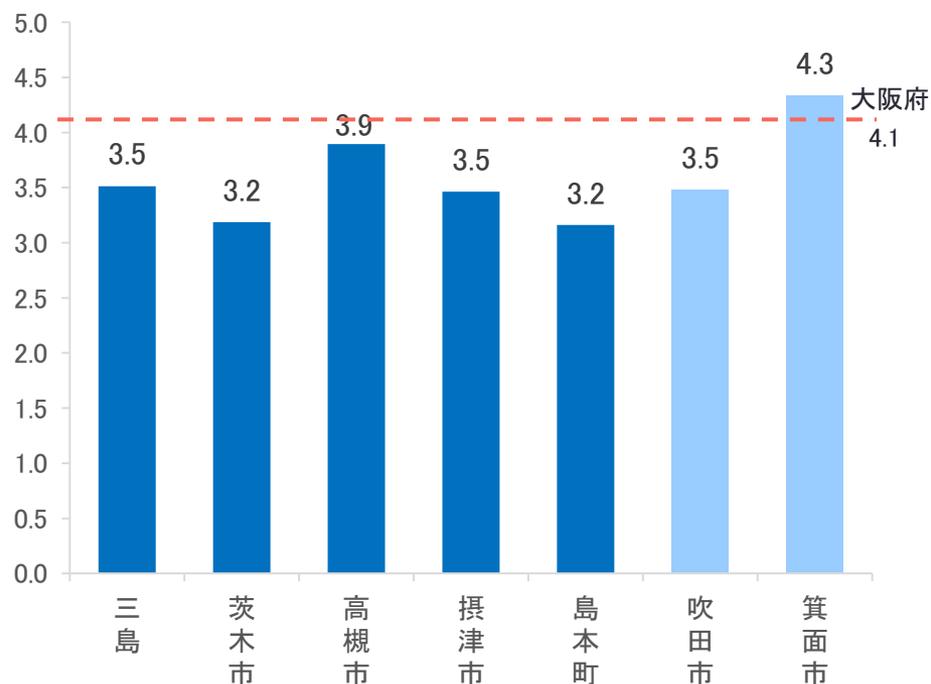
人口10万対の脳卒中の急性期治療の実施病院

(人口10万対)



人口10万対の脳血管疾患等のリハビリテーション実施病院

(人口10万対)



※算出に用いた人口は各市町の住民基本台帳人口(令和2(2020)年1月1日現在)

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用(平成29(2017)年6月30日現在) 出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

心血管疾患

- 三島二次医療圏において、心血管疾患の急性期治療を行う病院は9施設で、うち、経皮的冠動脈ステント留置術が可能な病院が9施設、冠動脈バイパス術が可能な病院が2施設となっている。
- 茨木市で経皮的冠動脈ステント留置術を行える病院は3施設、冠動脈バイパス術を行える病院は0施設となっている。

心血管疾患治療の実施病院数

(施設)

	心血管疾患の急性期治療を行う病院数	経皮的冠動脈形成術(PTCA)	経皮的冠動脈ステント留置術	心臓カテーテル法による血管内超音波検査	冠動脈バイパス術	ペースメーカー移植術	心大血管疾患等リハビリテーション
三島二次医療圏	9	7	9	8	2	12	8
茨木市	3	2	3	2	-	4	2
高槻市	6	5	6	6	2	7	6
摂津市	-	-	-	-	-	1	-
島本町	-	-	-	-	-	-	-
〈参考〉吹田市	6	6	6	5	3	8	4
箕面市	1	-	1	1	-	2	1
大阪府	114	108	114	72	43	154	77

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

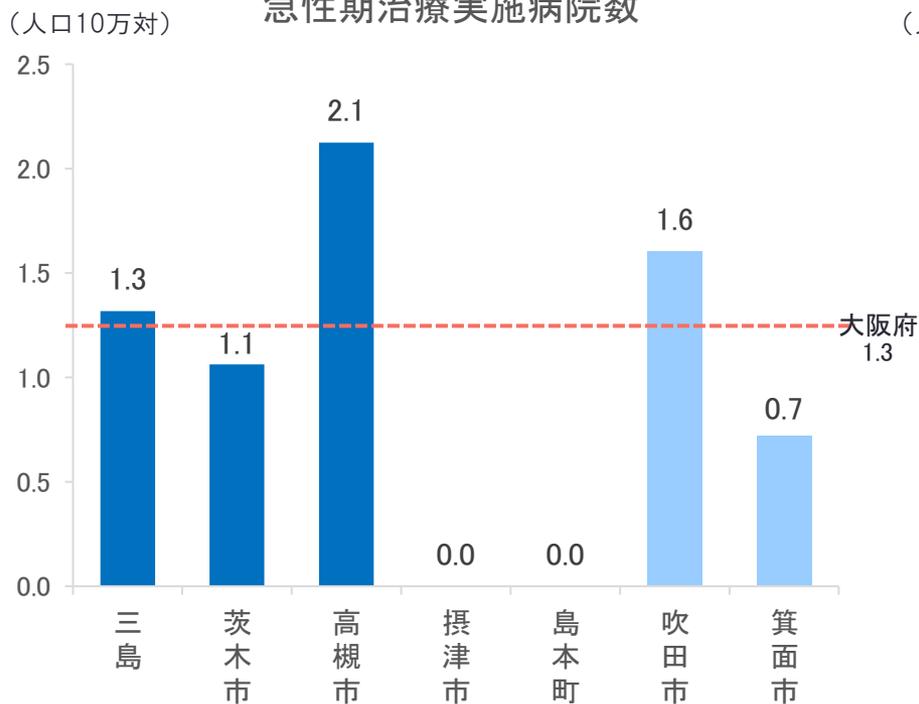
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用(平成29(2017)年6月30日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

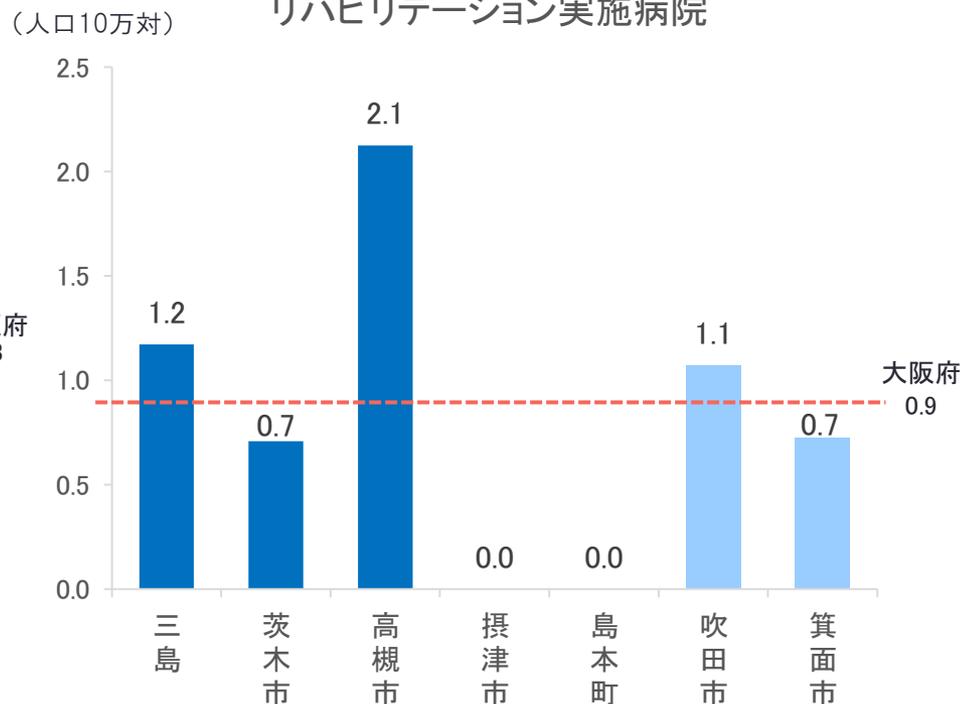
心血管疾患

- 茨木市の人口10万人対での心血管疾患の急性期治療を行う病院数は1.1で大阪府の平均を下回り、心大血管疾患リハビリテーションに対応する病院数は大阪府（0.9）や三島二次医療圏（1.2）の平均と比較すると少ない。

人口10万対の心血管疾患の急性期治療実施病院数



人口10万対の心大血管疾患リハビリテーション実施病院



※算出に用いた人口は各市町の住民基本台帳人口(令和2(2020)年1月1日現在)
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用(平成29(2017)年6月30日現在)

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

糖尿病

- 三島二次医療圏において、糖尿病の治療を行う病院は28施設で、うち、インスリン療法が可能な病院が26施設、合併症治療として網膜光凝固術が可能な病院が12施設、血液透析が可能な病院は各13施設となっている。
- 茨木市で糖尿病の治療を行う病院は10施設あり、インスリン療法が可能な病院が8施設、合併症治療の網膜光凝固術、血液透析が可能な病院が各4施設となっている。
- 人口10万人対の施設数では、大阪府、三島二次医療圏と比較すると少ない。

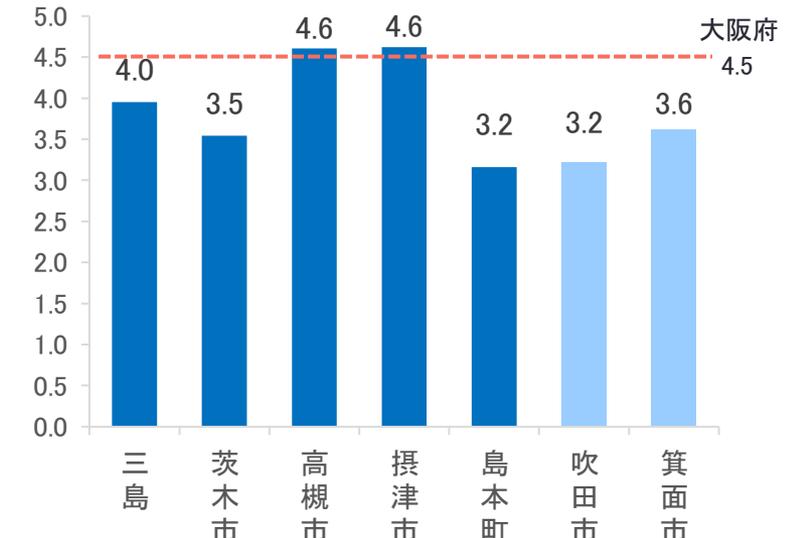
糖尿病治療の実施病院数

(施設)

	糖尿病の治療を行う病院数	治療										指導		
		インスリン療法 薬注射	①「P」受容体作動 薬の外来での導入	糖尿病に関する注射 管スクリーニング	糖尿病に関する大血 管スクリーニング	網膜光凝固術	硝子体手術	腹膜透析	血液透析	夜間透析	生体腎移植	在宅自己注射指導 管理	在宅自己腹膜灌流 指導管理	在宅血液透析指導 管理
三島二次医療圏	28	26	8	16	7	12	10	8	13	3	1	27	5	4
茨木市	10	8	2	6	2	4	3	1	4	-	-	10	1	1
高槻市	13	13	5	8	5	7	7	7	8	3	1	12	4	3
摂津市	4	4	-	1	-	-	-	-	1	-	-	4	-	-
島本町	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
<参考>吹田市	12	12	7	10	6	6	5	4	6	1	2	12	4	2
<参考>箕面市	6	6	1	1	-	1	-	-	3	-	-	5	-	-
大阪府	395	373	121	157	56	117	83	95	168	41	17	413	61	27

人口10万人対の糖尿病治療の実施病院

(人口10万対)



※算出に用いた人口は各市町の住民基本台帳人口(令和2(2020)年1月1日現在)
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用(平成29(2017)年6月30日現在)

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

精神疾患

- 三島二次医療圏において、精神科医療を行う病院は9施設あり、9施設全てが茨木市または高槻市にあり、精神科病院が66.7%を占めている。
- 圏域内では精神科専門の病院は茨木市と高槻市で充実している状況である。

精神科医療を行う病院

(施設)

	一般病院精神科等	精神科病院	計
三島二次医療圏	3	6	9
茨木市	1	3	4
高槻市	2	3	5
摂津市	-	-	-
島本町	-	-	-
豊能二次医療圏※	8	5	13
吹田市	5	1	6
箕面市	2	2	4
北河内二次医療圏	4	7	11
中河内二次医療圏	1	4	5
南河内二次医療圏	3	5	8
堺市二次医療圏	4	5	9
泉州二次医療圏	3	17	20
大阪市二次医療圏	22	1	23
大阪府	48	50	98

※豊能二次医療圏には豊中市、池田市、豊能町、能勢町も含まれる。

出典:「こころの健康総合センター調べ」(平成31(2019)年1月24日現在)(大阪府)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

救急医療

- 初期救急医療については茨木市内では茨木市保健医療センター附属急病診療所で内科と歯科を実施している。小児科については小児初期救急医療体制の広域化を図り、高槻島本夜間休日応急診療所で実施している。
- 二次救急医療については、茨木市内では救急告示医療機関が9施設ある。
- 三次救急医療については、高槻市内の大阪府三島救命救急センター、吹田市内の大阪大学医学部附属病院、大阪府済生会千里病院が対応している。

初期救急医療機関の各市確保状況

所在地	医療機関名	住所	診療科目
茨木市	茨木市保健医療センター附属急病診療所	茨木市春日3-13-5	内科、歯科
高槻市	大阪府三島救急医療センター高槻島本夜間休日応急診療所	高槻市南芥川11-1	内科、小児科、外科、歯科
摂津市	摂津市立休日小児急病診療所	摂津市香露園32-19	小児科
吹田市	吹田市立休日小児急病診療所	吹田市出口町19-2	内科、小児科、外科、歯科
	大阪大学歯学部附属病院	吹田市山田丘1-8	歯科口腔外科
箕面市	豊能広域こども急病センター	箕面市萱野5-1-14	小児科
	箕面市立病院	箕面市萱野5-7-1	内科、歯科

出典:「大阪府の救急医療体制 休日・夜間急病診療所一覧」
(令和2年(2020)年7月2日現在)(大阪府)

二次救急告示病院 (施設)

	二次救急	
三島二次医療圏	23	
茨木市	9	
高槻市	11	
摂津市	2	
島本町	1	
<参考>	吹田市	9
	箕面市	1

出典:「大阪府救急告示医療機関一覧」(令和2年(2020)年7月1日現在)(大阪府)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

災害医療

- 三島二次医療圏では災害拠点病院として大阪府三島救命救急センター及び大阪医科大学附属病院が合わせて指定されている。
- 市町村災害医療センターとして茨木市では茨木市保健医療センター附属急病診療所が指定されている。
- 災害医療協力病院として、全ての救急告示医療機関が指定されている。

＜災害医療協力病院＞

- ・ 災害拠点病院や市町村災害医療センターなどと協力し、中等症患者を中心に災害時に率先して受入
- ・ 災害拠点病院に収容された重症・重篤患者が安定化し、災害拠点病院から要請がある場合は率先して受入

三島二次医療圏構成市町村並びに吹田市、箕面市の災害拠点病院及び災害協力病院一覧

		災害拠点病院及び災害協力病院
三島二次医療圏	茨木市	清風会茨木病院
		茨木みどりヶ丘病院(旧:博愛茨木病院)
		藍野花園病院
		谷川記念病院
		大阪府済生会茨木病院
		田中病院
		日翔会病院
		北大阪ほうせんか病院
	友誼会総合病院	
	高槻市	高槻赤十字病院
		大阪医科大学附属病院(地域災害拠点病院)
		光愛病院
		新阿武山病院
		みどりヶ丘病院
		愛仁会高槻病院
		大阪府三島救命救急センター(地域災害拠点病院)
		第一東和会病院
		うえだ下田部病院
		北摂総合病院
		美喜和会オレンジホスピタル
大阪医科大学三島南病院		
摂津市	摂津ひかり病院	
	摂津医誠会病院	
島本町	水無瀬病院	
＜参考＞	吹田市	榎坂病院
		大和病院
		井上病院
		協和会病院
		大阪府済生会千里病院(災害拠点病院)
		市立吹田市民病院
		吹田徳洲会病院
		大阪府済生会吹田病院
		国立循環器病研究センター
		大阪大学医学部附属病院(災害拠点病院)
箕面市	箕面市立病院	

出典:大阪府地域防災計画 関連資料集「大阪府内災害医療機関一覧」(令和元(2019)年5月1日現在)(大阪府)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

周産期医療

- 三島二次医療圏では、周産期医療患者対応医療機関数は病院が6施設、診療所が17施設となっている。
- 茨木市での周産期医療患者対応医療機関数は病院が2施設、診療所が6施設であり、周産期母子医療センターは高槻市内に2施設設置されている。

三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の周産期医療対応病院一覧

		周産期医療対応病院
三島二次医療圏	茨木市	大阪府済生会茨木病院
		田中病院
	高槻市	高槻赤十字病院
		大阪医科大学附属病院(地域周産期母子医療センター)
		高槻病院(総合周産期母子医療センター)
		北摂総合病院
〈参考〉	吹田市	大阪府済生会千里病院
		市立吹田市民病院
		吹田徳洲会病院
		大阪府済生会吹田病院(地域周産期母子医療センター)
		国立循環器病研究センター(地域周産期母子医療センター)
		大阪大学医学部附属病院(総合周産期母子医療センター)
	箕面市	箕面市立病院

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

小児医療

- 三島二次医療圏において小児科標榜の病院を人口10万人対で見ると、茨木市は高槻市と比べ少なく、小児科標榜診療所数についても高槻市、摂津市と比べ少なくなっている。

小児医療患者対応医療機関数

	小児科			小児外科		
	病院	診療所	計	病院	診療所	計
三島二次医療圏	14	112	126	1	2	3
茨木市	5	40	45	-	2	2
高槻市	8	51	59	1	-	1
摂津市	1	17	18	-	-	-
島本町	-	4	4	-	-	-
〈参考〉	吹田市	6	56	2	3	5
	箕面市	1	15	16	-	-

人口10万人対の小児医療患者対応医療機関数

	小児科			
	病院	診療所	計	
三島二次医療圏	2.0	16.4	18.4	
茨木市	1.8	14.2	15.9	
高槻市	2.8	18.1	20.9	
摂津市	1.2	19.6	20.8	
島本町	-	12.6	12.6	
〈参考〉	吹田市	1.6	15.0	16.6
	箕面市	0.7	10.8	11.6

※算出に用いた人口は「住民基本台帳」(令和2(2020)年1月1日現在)(各市町)

三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の小児医療対応病院一覧

		小児医療対応病院
三島二次医療圏	茨木市	田中病院
		藍野病院
		友誼会総合病院
		サンタマリア病院
		大阪府済生会茨木病院
	高槻市	うえだ下田部病院
		第一東和会病院
		大阪医科大学附属病院
		しんあい病院
		高槻病院
		北摂総合病院
		みどりヶ丘病院
	高槻赤十字病院	
	摂津市	摂津ひかり病院
〈参考〉	吹田市	吹田徳洲会病院
		大阪大学医学部附属病院
		国立循環器病研究センター
		大阪府済生会吹田病院
		大阪府済生会千里病院
		市立吹田市民病院
	箕面市	箕面市立病院

出典:「大阪府医療機関情報システム」(令和2(2020)年12月9日現在)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

小児医療

- 入院医療に関して、三島医療二次医療圏内で小児入院医療管理料の届出を行っている病院は5施設で茨木市に1施設、高槻市に4施設ある。
- 外来医療、特に初期救急医療に関して、三島二次医療圏においては応急診療所として高槻島本夜間休日応急診療所があるが、茨木市市民で小児科を受診している患者は利用割合の推移から見ると大きな変動は見られない。

小児医療患者対応医療機関における施設基準届出施設数 (施設)

	小児入院 医療管理料	人口10万対	院内トリアージ 実施料	人口10万対
三島二次医療圏	5	0.7	8	1.2
茨木市	1	0.4	1	0.4
高槻市	4	1.4	7	2.5
摂津市	-	-	-	-
島本町	-	-	-	-
<参考>				
吹田市	5	1.3	4	1.1
箕面市	1	0.7	2	1.4

出典:「施設基準の届出受理状況」(令和2(2020)年12月1日現在)(近畿厚生局)

※算出に用いた人口は「住民基本台帳人口」(令和2年(2020)年1月1日現在(各市町))

高槻島本夜間休日応急診療所(小児科)利用状況分析 (人)

		平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
高槻島本夜間 休日応急診療所 利用状況(小児科)	茨木市 (利用割合)	5,935 (35.3%)	5,408 (35.8%)	5,049 (33.2%)
	全体 (昼夜計)	16,835	15,101	15,199

出典:茨木市「令和元年度 事務事業実績報告 事務事業実績シート」(茨木市)
全体「令和元年度 高槻市統計書」(高槻市)

(3) 茨木市及び周辺圏域の分野別の状況

感染症医療

- 三島二次医療圏内の感染症指定医療機関は、高槻赤十字病院（第二種：一般病床6床）のみとなっている。

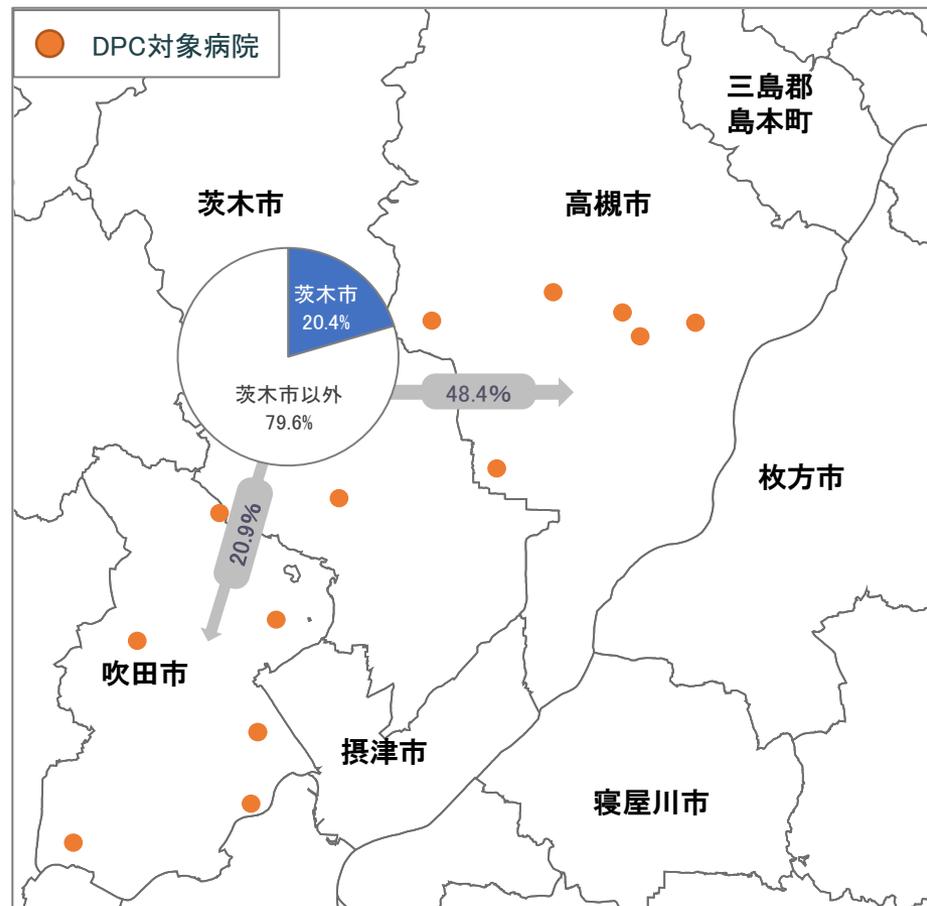
	特定感染症 指定医療機関	第一種感染症 指定医療機関	第二種感染症 指定医療機関
大阪府内 指定医療機関	<ul style="list-style-type: none"> りんくう総合医療センター（2床） 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市立総合医療センター（1床） 堺市立総合医療センター（1床） りんくう総合医療センター（2床） 	<ul style="list-style-type: none"> 高槻赤十字病院（一般病床6床） 市立豊中病院（感染症病床14床） 大阪刀根山医療センター（結核病床60床） 市立ひらかた病院（感染症病床8床） 大阪市立総合医療センター（感染症病床32床） 大阪府結核予防会大阪病院（結核病床30床） 仁泉会阪奈病院（結核病床123床） 大阪はびきの医療センター（感染症病床6床、結核病床60床、一般病床6床） 大阪市立十三市民病院（結核病床39床、一般病床1床） 近畿中央呼吸器センター（結核病床40床） 堺市立総合医療センター（感染症病床6床） りんくう総合医療センター（感染症病床6床）
概要	<ul style="list-style-type: none"> 新感染症、一類感染症、二類感染症に係る医療を行う 厚生労働大臣が指定 全国に4医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> 一類感染症、二類感染症に係る医療を行う 都道府県知事が指定 原則都道府県に1か所 	<ul style="list-style-type: none"> 二類感染症に係る医療を行う 都道府県知事が指定 原則二次医療圏に1か所

出典：感染症指定医療機関の指定状況(平成31年4月1日現在)(厚生労働省)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

全疾患（急性期医療の受療動向）

- 急性期医療を担うDPC対象病院は茨木市内に1施設、高槻市内に6施設、吹田市内に7施設となっている。
- 茨木市内への受療が20.4%、高槻市内への受療が48.4%を占める。
- 医療機関別では済生会茨木病院への受療が多く、内分泌・栄養・代謝に関する疾患、外傷・熱傷・中毒でのシェアが高い。
- 神経系疾患は大阪大学医学部附属病院、循環器系疾患は北摂総合病院、血液・造血器・免疫臓器の疾患は高槻赤十字病院、女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩は大阪医科大学附属病院への受療が多くなっている。
- 済生会茨木病院の診療単価は高槻市内、吹田市内のDPC対象病院に比べて低くなっている。

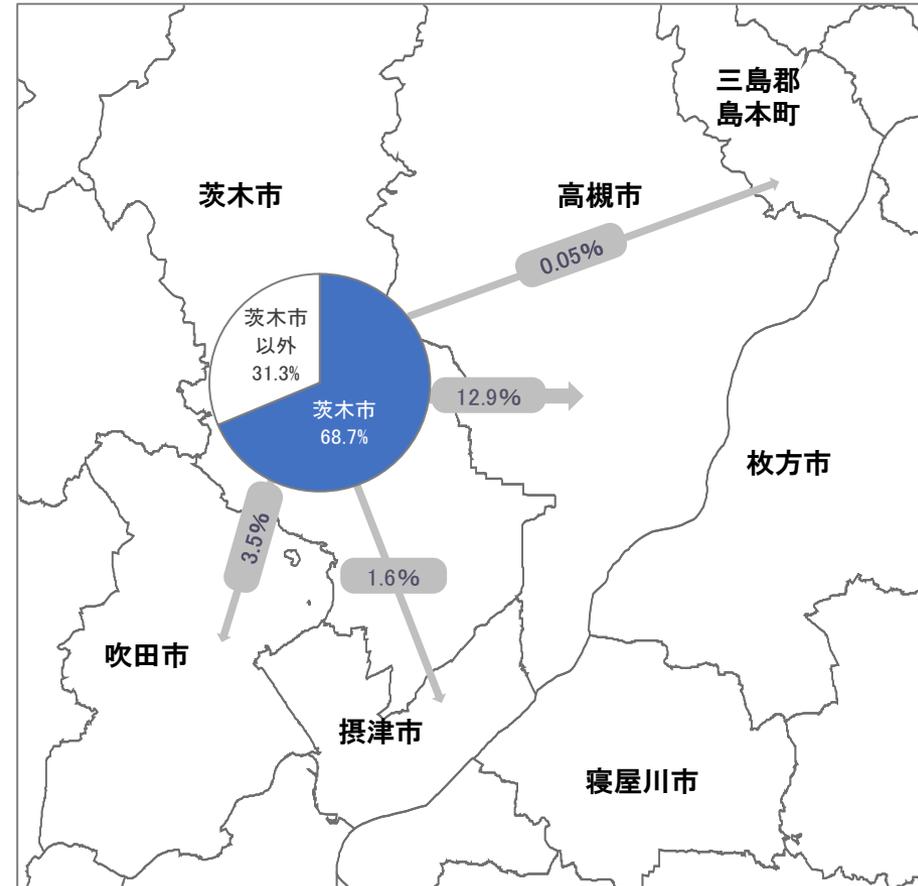


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ
(DPCレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

全疾患（回復期以降の受療動向）

- 急性期医療と比較して茨木市内への受診割合が高くなり、68.7%となっている。
- 高槻市への受療が12.9%を占め、三島二次医療圏内での受療が8割以上を占める。
- 神経系の疾患は藍野病院、眼及び付属器の疾患、消化器系の疾患、損傷、中毒及びその他の外因の影響は北大阪ほうせんか病院（旧：北大阪警察病院）、筋骨格系及び結合組織の疾患、腎尿路生殖器系の疾患は茨木医誠会病院、呼吸器系の疾患は恵仁会田中病院への受療が多くなっている。



出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ
(医科・入院レセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

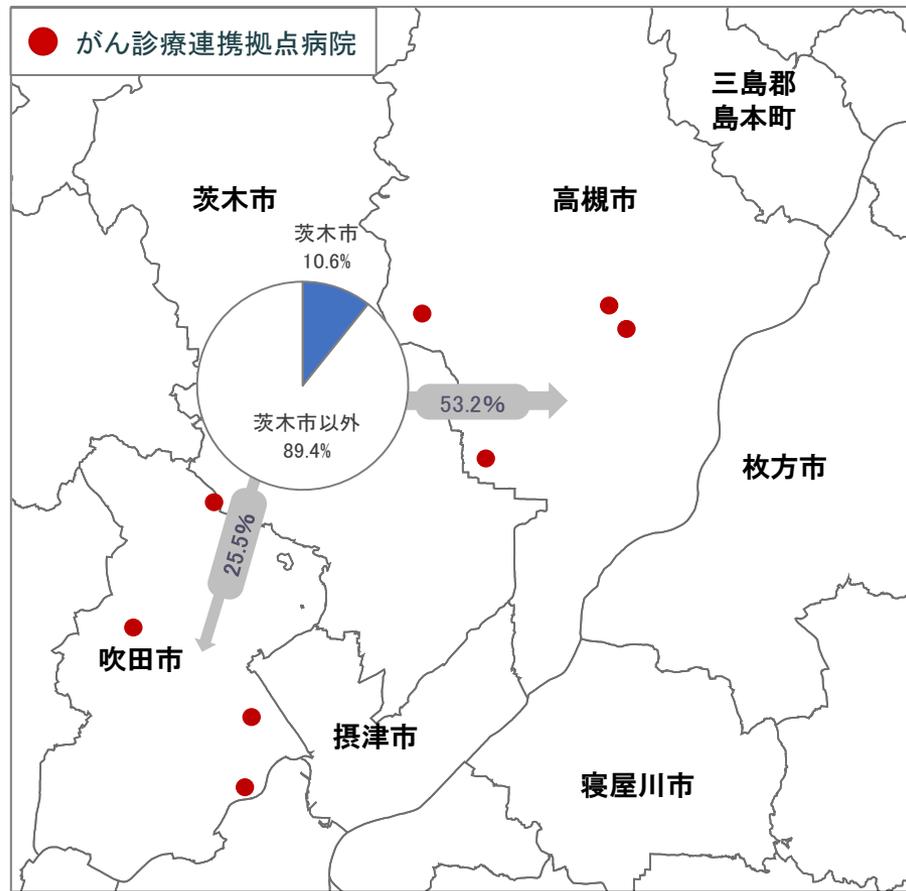
がん

- 急性期医療では茨木市内への受療が10.6%、高槻市内への受療が53.2%、吹田市内への受療が25.5%を占め、大学病院を中心にがん診療連携拠点病院への受療が多い。

<がん種別の受療動向>

- 脳腫瘍：大阪医科大学附属病院
- 頭頸部がん：大阪医科大学附属病院
- 肺がん：高槻赤十字病院、大阪医科大学附属病院
- 消化器系のがん：済生会茨木病院
- 乳がん：大阪大学医学部附属病院
- 前立腺がん：大阪大学医学部附属病院
- 子宮がん、卵巣がん：大阪医科大学附属病院
- 白血病：大阪医科大学附属病院

- 回復期以降の医療では茨木市内ではがん医療に特化した彩都友絃会病院、緩和ケア病棟を持つほうせんか病院への受療が多い。

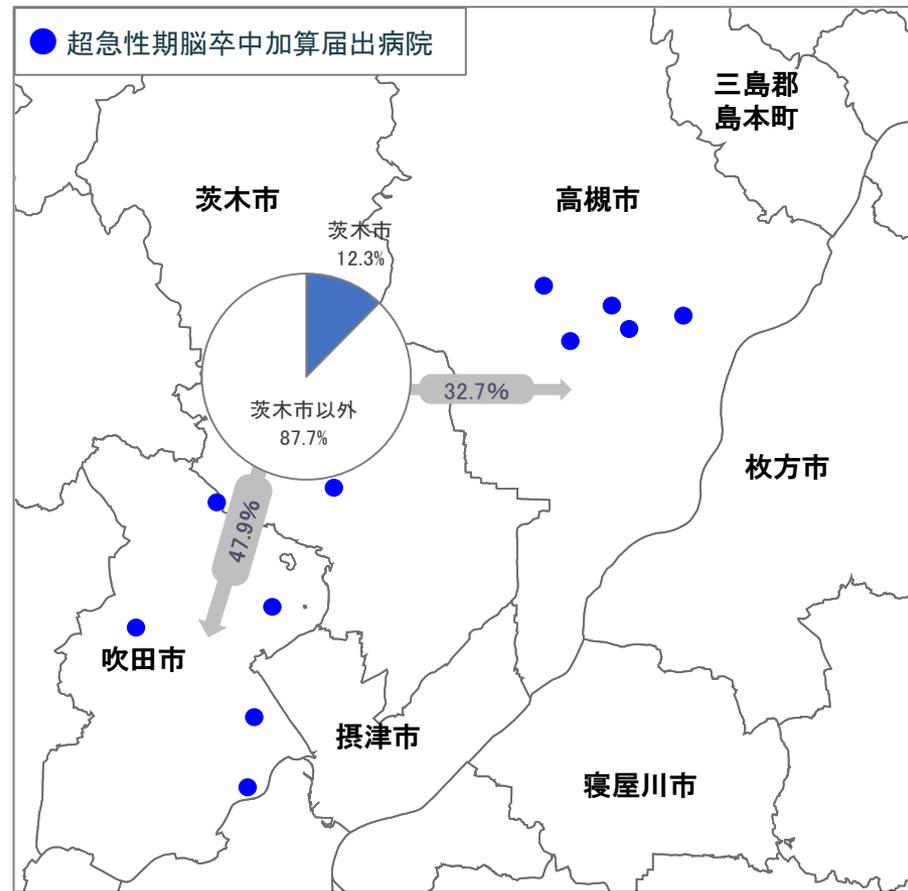


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ (DPCレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

脳血管疾患

- 急性期医療では茨木市内への受療が12.3%、高槻市内への受療が32.7%、吹田市内への受療が47.9%を占め、国立循環器病研究センター、みどりヶ丘病院、大阪大学医学部附属病院への受療が多い。
- 回復期以降の医療では北大阪ほうせんか病院（旧：北大阪警察病院）、友紘会総合病院、茨木医誠会病院等、回復期リハビリテーション病棟や療養病棟を持つ病院への受療が多い。

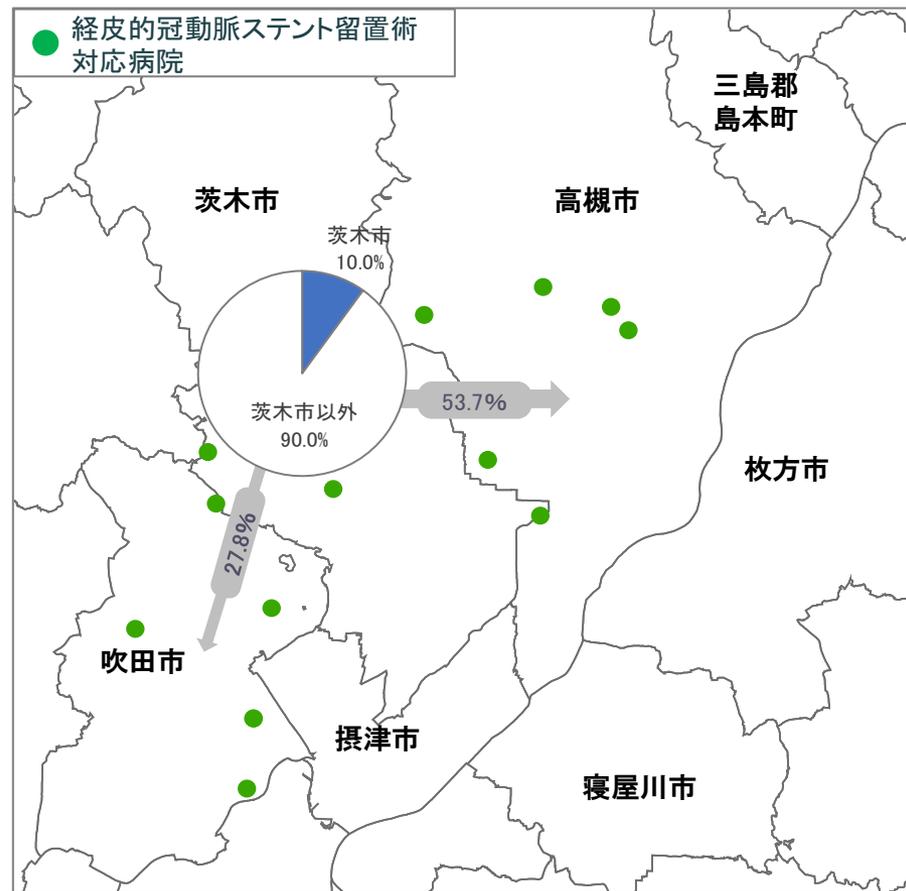


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ（DPCレセプトデータ）（2018年4月～2019年3月）

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

心血管疾患

- 急性期医療では茨木市内への受療が10.0%、高槻市内への受療が53.7%、吹田市内への受療が27.8%を占め、大阪医科大学附属病院、国立循環器病研究センター、北摂総合病院、高槻赤十字病院への受療が多い。

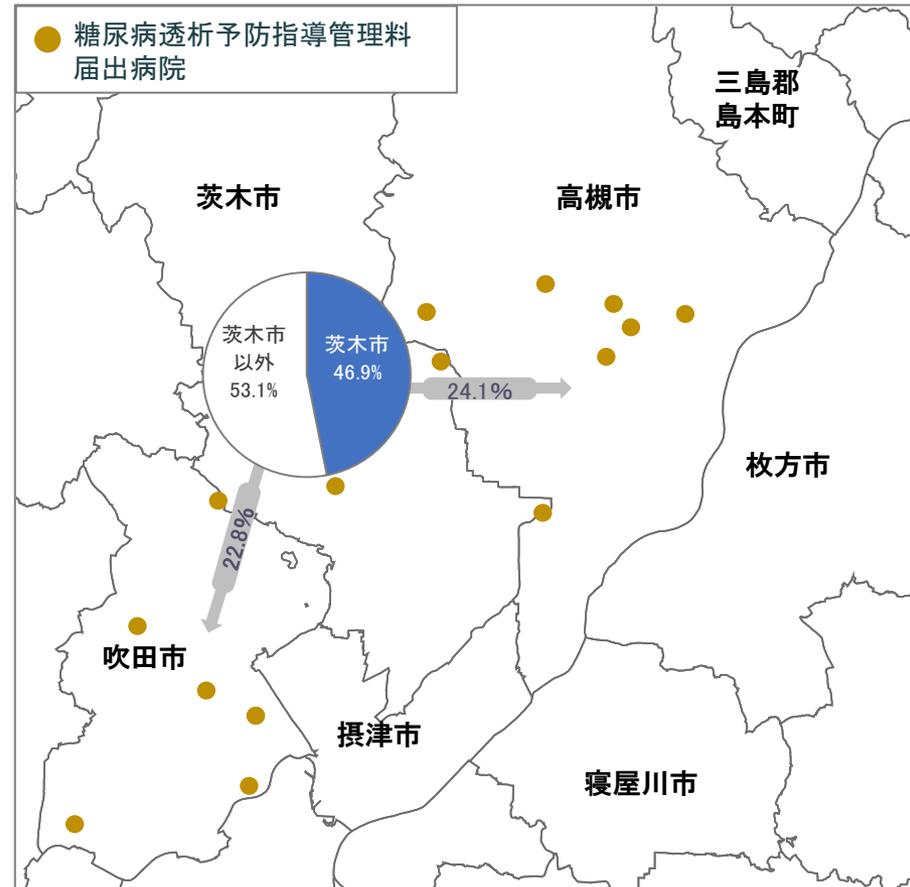


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ
(DPCレセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

糖尿病

- 急性期医療では茨木市内への受療が46.9%、高槻市内への受療が24.1%、吹田市内への受療が22.8%を占め、茨木市内での完結率が高くなっている。
- 済生会茨木病院、大阪大学医学部附属病院、高槻赤十字病院への受療が多い。
- 回復期以降の医療では藍野病院、北大阪ほうせんか病院（旧：北大阪警察病院）、友誼会総合病院への受療が多い。

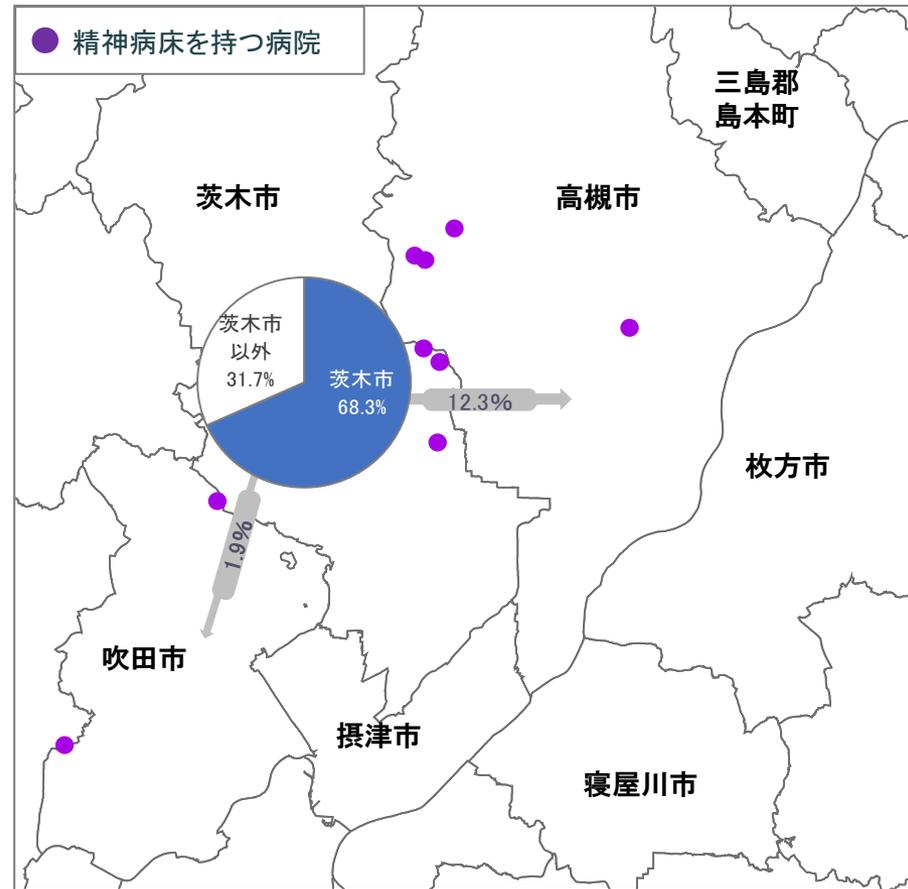


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ（DPCレセプトデータ）（2018年4月～2019年3月）

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

精神疾患

- 茨木市内への受療が68.3%、高槻市内への受療が12.3%を占め、茨木市内での完結率が高くなっている。
- 茨木市内では精神病床を持つ藍野花園病院、藍野病院、清風会茨木病院への受療が多い。

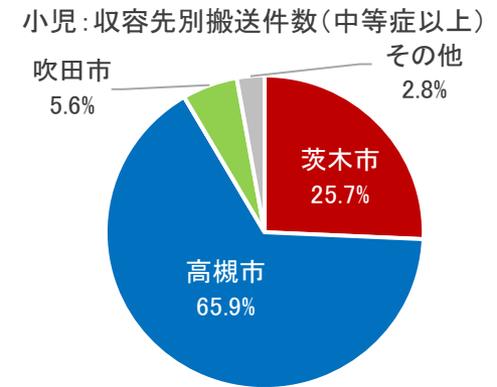
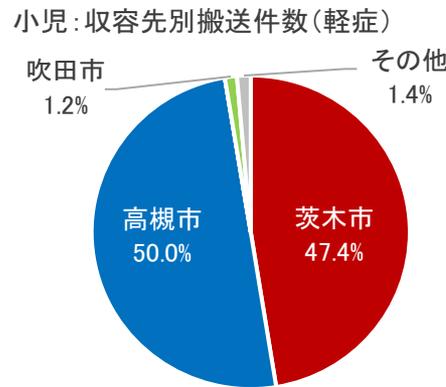
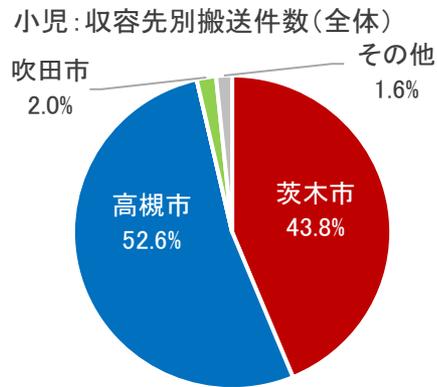
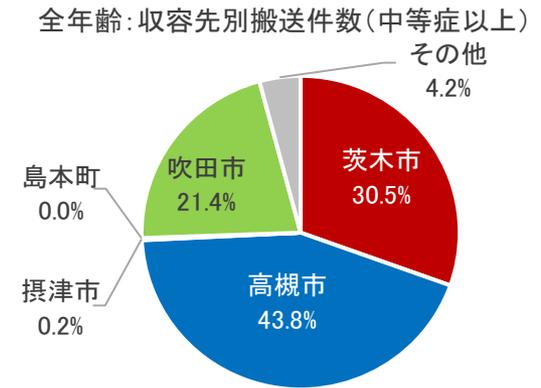
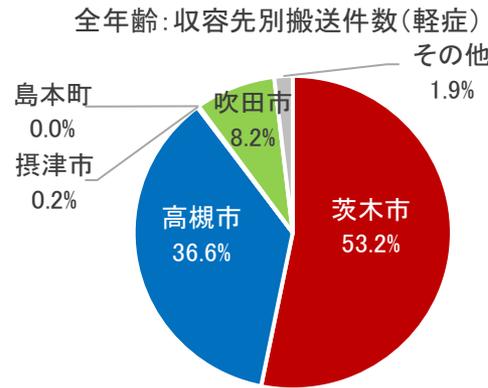
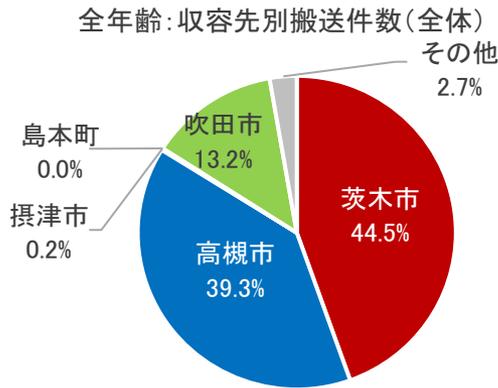


出典：茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ
(医科レセプトデータ)(2018年4月～2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

救急医療

- 救急医療については茨木市内への搬送割合が軽症では53.2%を占めるが、入院を必要とする中等症以上では高槻市内への搬送割合が高くなる。
- 小児救急については軽症の約4割を済生会茨木病院が受けているが、中等症では愛仁会高槻病院への搬送割合が高くなる。

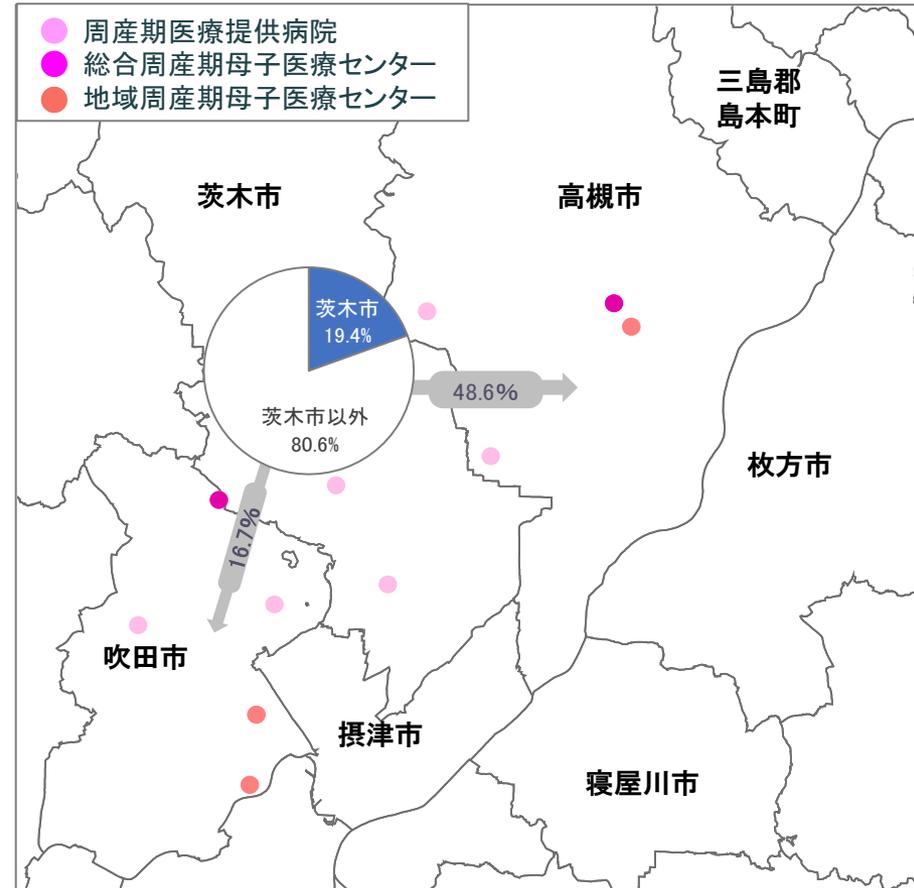


出典：茨木市救急搬送実績(2017年1月～2017年12月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

周産期医療

- 急性期医療では茨木市内への受療が19.4%、高槻市内への受療が48.6%、吹田市内への受療が16.7%を占め、周産期母子医療センターである大阪医科大学附属病院、愛仁会高槻病院、大阪大学医学部附属病院への受療が多い。
- 茨木市内では大阪府済生会茨木病院、恵仁会田中病院への受療が多い。



出典: 茨木市国民健康保険及び後期高齢者医療制度レセプトデータ (DPCレセプトデータ)(2018年4月~2019年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

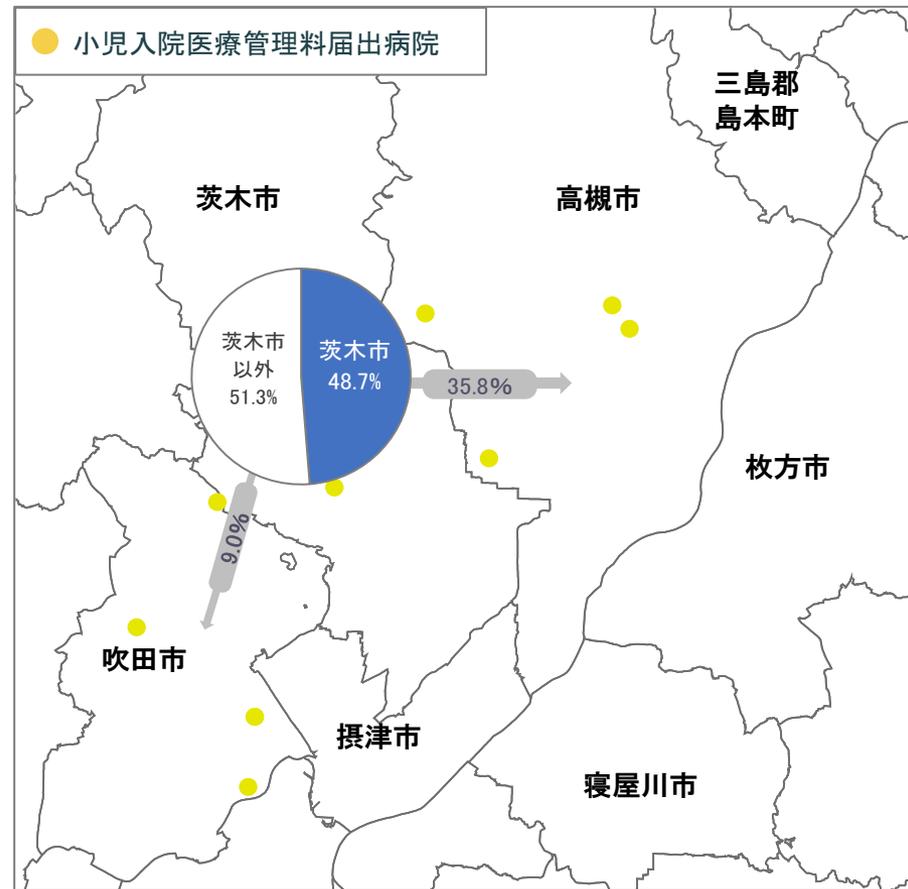
小児医療

- 急性期医療では茨木市内への受療が48.7%、高槻市内への受療が35.8%、吹田市内への受療が9.0%を占め、済生会茨木病院、愛仁会高槻病院への受療が多い。

<疾患別の受療動向>

- 神経系疾患：大阪医科大学附属病院
- 新生物：大阪大学医学部附属病院
- 耳鼻咽喉科系疾患：済生会茨木病院
- 呼吸器系疾患：済生会茨木病院
- 内分泌・栄養・代謝に関する疾患：済生会茨木病院
- 先天性心疾患：国立循環器病研究センター

- DPC病院以外では、恵仁会田中病院への受療が多く、内分泌、栄養及び代謝疾患（甲状腺機能低下症、低血糖）、周産期に発生した病態（先天性肺炎）に対応している。



出典：茨木市子ども医療費助成レセプトデータ
(DPCレセプトデータ)(2016年4月～2017年3月)

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

必要となる医療機能について

<病床機能>

【高度急性期・急性期】

- 茨木市及び周辺圏域で医療機関間の機能分担が進んでおり、高度急性期医療については、大学病院を中心に高槻市内、吹田市内の医療機関への受療が多いが、急性期医療は済生会茨木病院への受療が多い。
- 今後の高齢者の増加に伴い、循環器系疾患、呼吸器系疾患、軽度外傷(主に高齢者の骨折)への対応の強化が必要となるが、急性期医療を担う茨木市内の医療機関との連携、機能分担が必要。

【回復期・慢性期】

- 回復期から慢性期については、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を持つ茨木市内の医療機関への受療が多い。一方で、茨木市及び三島二次医療圏内で回復期機能を持つ病床が不足している。
- 住み慣れた地域で暮らしを続けることができるよう、今後回復期病床の確保が必要となる(令和2年12月1日時点では回復期リハビリテーション病棟の届出が3施設、地域包括ケア病棟の届出が3施設)。

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

必要となる医療機能について

<5疾病4事業等への対応>

【がん】

- がんについては、がん診療連携拠点病院やがん専門病院への受療が多く、三島二次医療圏内では充足している。

【脳血管疾患、心血管疾患】

- 脳血管疾患、心血管疾患の急性期医療は、高槻市内、吹田市内の医療機関への受療が多いが、茨木市中心街から自動車20分圏域で対応できている。
- 回復期以降は、茨木市内の回復期リハビリテーション病棟や療養病棟を持つ医療機関への受療が多いが、今後回復期機能を持つ病床の確保が必要。

【救急医療】

- 救急医療は、茨木市内への搬送割合が軽症では50%以上を占めるが、入院を必要とする中等症以上では高槻市内への搬送割合が高くなり、地域の入院医療を要する救急搬送患者の受入先の確保が必要。

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

必要となる医療機能について

<5疾病4事業等への対応>

【周産期医療】

- 周産期医療は、周産期母子医療センターへの受療が多いが、通常の妊娠、分娩については、済生会茨木病院、恵仁会田中病院への受療も多く、吹田市も含めた周辺圏域で対応できている。

【小児医療】

- 小児医療は、専門対応が必要な神経系疾患、循環器系疾患、先天性疾患、小児がんについては高槻市内、吹田市内の大学病院を中心とした医療機関への受療が多い。
- 小児の感染症、呼吸器系疾患、耳鼻咽喉科系疾患は、済生会茨木病院、恵仁会田中病院への受療が多い。
- 小児外来は、茨木市内の診療所への受療が多く、診療所での対応が難しい疾患は、主に済生会茨木病院、大阪医科大学附属病院、愛仁会高槻病院で対応している。

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

必要となる医療機能について

<5疾病4事業等への対応>

【小児救急医療】

- 高槻島本夜間休日応急診療所への受療も多いが、急性咽頭炎、急性扁桃炎等の呼吸器系の疾患、腸管感染症等、軽症の患者が多く、子どもの急な病気に不慣れな保護者の不安を軽減しつつ、小児救急患者に対する適切な受診体制の構築や子育て世代への支援が重要になる。

【感染症医療】

- 感染症医療については、三島二次医療圏内では高槻赤十字病院が対応しているが、新型コロナウイルス感染症や今後の感染症発生を見据え、一般患者と感染患者との動線分離を図れるような施設整備が求められる。

(4) 茨木市の受療動向及び必要となる医療機能について

議論いただきたいポイント

① 誘致病院で整備する病床機能の考え方

- 地域医療構想における必要病床数では回復期機能が不足するが、各機能（高度急性期/急性期/回復期/慢性期）の病床をどの程度整備すべきか。

② 誘致病院での5疾病4事業等への対応について

- 茨木市内及び周辺圏域の医療需給状況等をふまえ、誘致する病院でどの医療機能を確保・充実すべきか。